

第1章 指針策定の目的

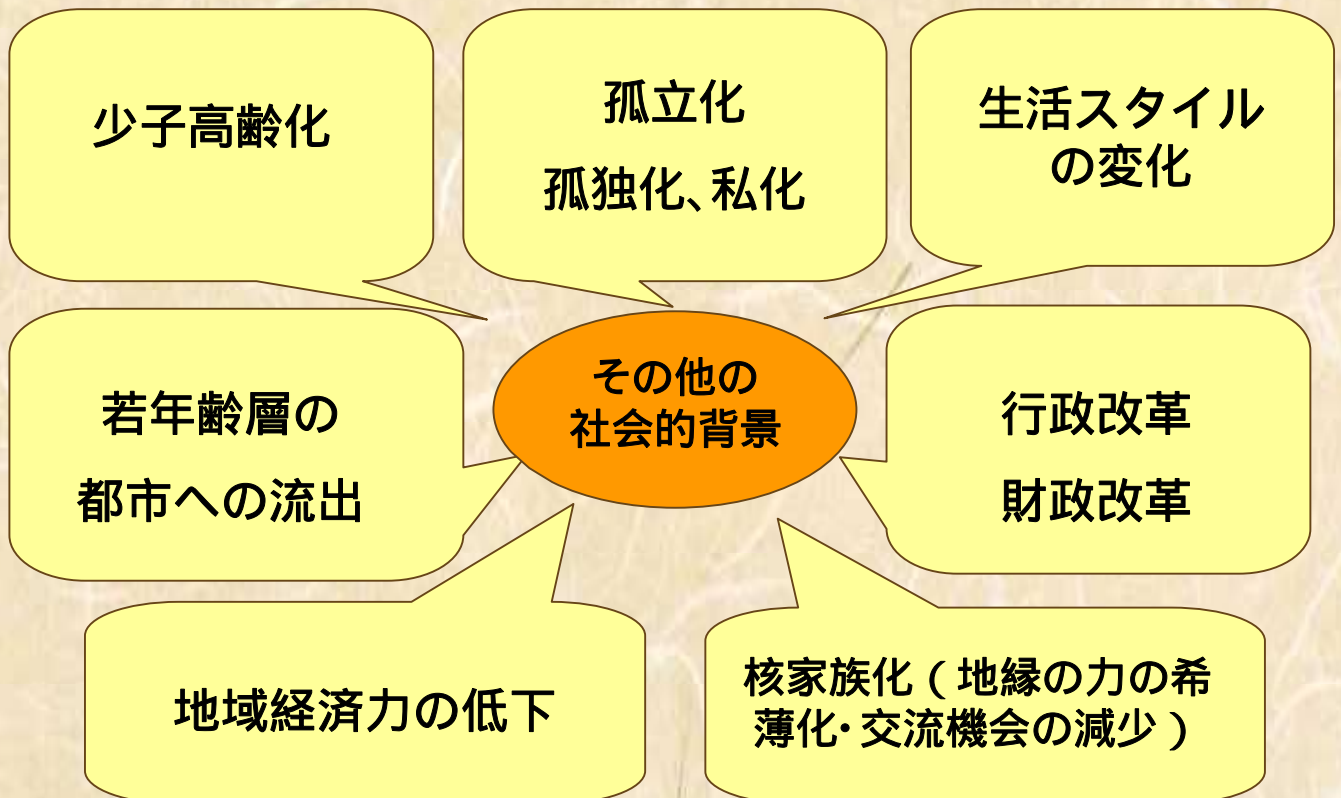
社会的背景

何か変わってきていませんか？あなたを取り巻く環境・・・

《地方分権の推進》

地方分権とは、これまで国が持っていた権限や財源を都道府県や市町村に移すことで、地域の特色を生かし独自の判断で施策や事業が行えることです。

地方分権が推進されることにより地方自治の本来の趣旨である住民自治(地域の運営は、その地域住民の意思によって行われるべきという概念です。)の観点から自己決定(地域の住民が自分たちで決定)、自己責任(その責任も自分たちが負う)というように世の中が変わってきています。



このような問題が深刻さを増している現状があります。

私化・・・個人の私的欲求を志向すること。

社会的背景から見えてくるもの

市民が生活する中でたくさんの地域課題に直面し、多くの迅速なサービスが求められています。



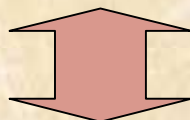
しかし、行政は、公平性・平等性を確保する必要があり、対応が難しい課題も発生しています。

これらを解決するためには



新しい公共の創造

行政とともに新しい公共空間を創るために、市民や市民活動団体、企業も参加・参画し、提案することが必要です。



市民協働

市民、市民活動団体が様々な活動に参加し、行政と共に責任と役割分担を相互に自覚し、対等の関係で共通の目的を達成するため、自由な発想のもとに活動することが必要です。



市民の皆さん、一人ひとりが、できることから行動に移していく必要があります。